



## 大人対子供でやろう！！

ドッジボールはみんなが大好きな遊びの一つです。いつものように子供同士でチームに分かれ遊んでいたのですが、「今度は大人対子供でやってみない？」という声上がり、私対子供でやってみることに。「先生一人だから誰が誘ってくるね。」と声を掛け、毎回ハートフルの先生や園務員さんを仲間に入れました。毎回大人2人対子供10数人での対決。「先生は強いから先に〇〇先生を狙おう！」「パスパス！」「当てて戻ってきてよ！」子供たちはどうしたら勝てるのか考え、友達と声を掛け合っていました。それでも、勝つのは大人チーム。子供たちは悔しくて泣いたり、もっと仲間を増やそうと他の子を誘いに行ったりしていました。それでも勝てません。

帰りの会でこのことを話題にしてみました。「明日は負けたくないから。」「もっとがんばる！」と意欲的な子供たちではあるのですが、やみくもにやっても勝てるかどうか。ドッジボールはチームで遊んでいるので、そこでできることを考えてほしいと思い、「がんばるっていう気持ちも大事だけど、どうがんばるかが大事なんだよ。先生と肥後先生は、秘密の作戦をやったから勝ったんだよ！」と話しました。「どんな作戦だろうね。」子供たちは“作戦”という言葉聞いて、考え始めました。「えー思いつかない。」「じゃあ、子供チームも作戦考えたら勝てるね。」「分かった！連携プレーだ。」子供たちが考えた作戦でどうにか大人チームに勝てるように力を合わせようとしています。はたして勝てる時が来るでしょうか！？



### 友達って？物をあげたくなる思いは。

『ともだちや』を読んだときのこと。オオカミが友達になったキツネに大切にしていたミニカーをあげた場面を思い出、「オオカミはミニカーいらなかったのかな。だからあげたんだよ。」その言葉がきっかけでオオカミの気持ちを考え始めました。「いらぬからあげたの？本当にそうかな？」と話す、「たくさんあるからだよ。」「かわいそうだからじゃない？」物をあげるときの素直な子供たちの感覚なのだろうと受け止めつつ、この場面ではキツネを大切な友達と思うオオカミの心情を感じてほしいと思い、「いらぬとかかわいそうとかそんなときばかりじゃないよね。物をあげたくなるときは。」と言いました。その言葉にピンと来た子が、「キツネは、(オオカミにとって)友達だからじゃない？」と言いました。「友達だと大事な物をあげたくなるんだね。」とその考えに共感しました。他の子たちも、「そういうときあるね。」と納得していました。「友達っているの？」とみんなに聞いてみました。子供たちの中で、“この子は友達でこの子は友達じゃない”などという自分で作っている壁があります。「一緒に遊んでいるから友達だよ。」「好きだから。」子供たちが考える友達の定義のようです。「喧嘩したり、嫌だなんて思ったりしたら友達じゃないの？」と聞いてみると、「うーん、喧嘩したって友達は友達だよ。」「嫌なことがあっても友達。」と返ってきました。「そうなんだあ。」子供たちもそんなことは意識していないと思います。でも、そういうことを考えてみる機会も大切だと思います。自分で決めた線引きで友達というつながりを無くしてはもったいない。そんなことを感じた場面でした。

### しっぽとりでも対決だ！！

乾布摩擦の手ぬぐいを使って、しっぽとりをしています。金華山チームと富士山チームに分かれて遊んでいます。しっぽとりは、自分のしっぽは取られないように相手のしっぽを取りに行くという2つのことを同時に行います。「相手が来たらくると後ろを見るといい。」「取られないのも大事だよね。」ここでも子供たちの考えが生まれています。チームを固定することで、仲間意識をもったり、作戦を練ったりして、繰り返し遊んでいきます。

### お誕生日おめでとうございます！！

(11月生まれ)